

# 令和6年度 小樽市立銭函中学校 学力向上改善プラン

## 1 生徒の実態

前改善プランの達成状況については、以下の通りである。

○R5 全国学力・学習状況調査（3年）の平均正答率（全国比）

国語はやや上回る、数学は下回る

○R5 標準学力調査（2年）の平均正答率（全国比）

国語は下回る、数学は大きく下回る

○R5 ほっかいどうチャレンジテスト（全道比）

国語は+0.1～0.4ポイント、数学は全道平均以下

○R5 漢字小テスト 6割以上の正答率達成

○学習・生活習慣

平日3時間以上のスマホ使用は全校平均で約26%であった。目標値20%以下は達成できなかった。携帯電話・スマートフォンの長時間使用が積年の課題となっている。

## 2 学年ごとの定着目標（数値目標）

### <国語科>

学年	学年別配当漢字を書くこと	チャレンジテストの正答率
1年	6割	60%以上
2年	6割	60%以上
3年	6割	55%以上

### <数学科>

学年	基礎学力	チャレンジテストの正答率
1年	一次方程式を解くことができる。(70%)	55%以上
2年	文字を用いた式の四則計算ができる。(70%)	55%以上
3年	二次方程式を解くことができる。(65%)	50%以上

### <学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・1日、全く勉強しない生徒の割合を10%未満
2年	・携帯電話、スマートフォンを平日に3時間以上使用する生徒の割合を20%以下にする。
3年	

## 3 目標を達成するための具体的な方策

### (1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①国語科において、情報を基に、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現する場面を単元の中で2回以上設定する。
- ②数学科において、加配を活用した放課後学習など補充学習に取り組む

### (2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①「小樽授業づくり5つのSTEP!!」をもとにした授業改善
- ②校内研修を要としたICT活用授業の実践
- ③小中一貫加配を活用した9年間を見通した教育課程の編成

### (3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①情報モラル指導の充実を通じた「おたるスマート7」の定着
- ②生活リズムチェックシート等の適切な活用
- ③学校図書館の充実と朝の読書活動の推進

## 4 実施計画

年月日	計画内容
令和6年	・研修推進委員会の実施、学力向上プランの作成
4月	・チャレンジテスト（前年度問題）等の実施 ・授業参観の実施 ○R6 全国学力・学習状況調査の実施・自己採点 ○2年標準学力調査の実施
5月	・自己採点結果の交流 ・通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒について情報共有
6月	・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・1学期期末テスト
7月	・学校評価アンケート（前期）の実施 ・夏休みの学習会の実施（樽っ子サポートを活用）
8月	○R6 全国学力・学習状況調査結果分析 ・中学校区4校による調査結果の共有
9月	・学力テスト ○保護者へ学校だより等で調査結果の説明
10月	・学校だよりや保護者会等で分析結果を説明 ・公開研究会の実施
11月	・2学期期末テスト ・進路説明会 ○学力向上改善プランの評価・改善
12月	・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・中学校4校合同研修会 ・学校評価アンケート（後期）の実施
令和7年	・学年末テスト（3年）
1月	・校内研究のまとめ ・全国学力・学習状況調査の過去問題等の効果的活用
2月	・学力向上検討委員会「確認テスト」等の実施 ・令和7年度教育課程の編成 ・学年末テスト（1・2年）
3月	○令和7年度学力向上改善プランの作成

## 5 評価方法

### (1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①全国学力・学習状況調査や標準学力調査の結果分析
- ②国語科や数学科におけるチャレンジテストや小テスト等の結果の分析
- ③放課後や長期休業中の学習会の取組の反省

### (2) 授業改善を図る校内研修の取組

- ①「小樽授業づくり5つのSTEP!!」に基づいた対話的な学びICTを位置づけた授業づくりの総括と反省
- ②公開研、校内授業公開等における研究協議、意見交換
- ③中学校区4校による共通の分析

### (3) 望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組

- ①全国学力・学習状況調査の質問調査の分析
- ②生徒アンケート・保護者アンケートの結果の分析
- ③コミュニティ・スクールやPTAと連動した家庭での生活リズムや家庭学習習慣の定着の検証